

シグマ委員会
2年度第2回運営委員会議事録(案)

日時 1990年6月22日(金) 14:00~17:40
場所 日本原子力研究所 本部 第5会議室
出席者 石井(原研)、五十嵐(NEDAC)、北沢(東工大)、瑞慶覧(日立)、
吉田(東芝)、若林(動燃)、菊池、長谷川(原研)
幹事 中川(原研)
オブザーバー 井頭(東工大)、松延(住友原工)

配布資料

1. 2年度第1回運営委員会議事録(案)とアクションリスト
2. 「Nuclear Data Evaluation Methodology Conference」についての C. Dunford 氏からの連絡
3. 「IAEA Consultants Meeting on Neutron Emission in Fission」についての S. Ganesan 氏からの手紙
4. 「IAEA Advisory Group Meeting on Intermediate Energy Nuclear Data」についての N.P. Kocherov 氏からの手紙
5. 原子力学会1990年年会(核データ・炉物理)合同特別会合パネル討論のメモ
6. 平成2年度会合開催予定
7. 核データ専門部会ワーキンググループリーダー会合議事録
8. 1990年核データ研究会準備状況
9. NEACRP/NEANDC核データ評価国際協力WG第2回会合
10. Standard Cross-Section Libraries for JEF Benchmarking
11. NEAデータバンク運営委員会議事録
12. PHYSOR'90報告(核データ)
13. シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会本委員会議題(案)
14. 原子力学会1990年秋の大会(核データ・炉物理)合同特別会合(案)
15. 地域センター討論資料

議事

I. 前回議事録確認

前回4月13日の議事録(配布資料1)を確認した。

II. 報告事項

II.1 事務局報告

菊池氏が以下の通り報告した。

- (1) 「Nuclear Data Evaluation Methodology Conference」の第2回会合を1992年に行う予定である(配布資料2)。JENDL側もこの会合に興味があるとDunford氏に連絡することとした。
- (2) 「IAEA Consultants Meeting on Neutron Emission in Fission」を1990年10月22～24日にウィーンで開く(配布資料3)。これには大沢氏(近大)が出席する予定である。
- (3) 「IAEA Advisory Group Meeting on Intermediate Energy Nuclear Data」を1990年10月9～12日にウィーンで開く予定である(配布資料4)。これには、深堀氏、中原氏(原研)及びINDC委員が出席する予定である。
- (4) 前回の宿題事項となっていた原子力学会(核データ・炉物理)合同特別会合でのパネル討論メモを、配布資料5の通り作成した。意見があれば事務局まで連絡することとした。

II.2 平成2年度WGの開催数について

各グループリーダーが希望してきたWG会合予定数(配布資料6)を中川氏が説明した。全体で昨年度開催数68回に対して今年度予定数は99回となっている。当面開催数の制限はせず、年度途中で、検討することとした。

核データ専門部会グループリーダー会合議事録(配布資料7)を中川氏が説明し、核データ評価WGの評価用データベースSWG、理論計算コードSWG、FP核データSWGをWGとし、核データ評価WGを無くすることを提案した。討論の結果提案通り認められた。また、炉定数専門部会の中は全てSWGとなっているが、これも全てWGとすることになった。

II.3 1990年核データ研究会について

井頭氏が配布資料8により、核データ研究会準備状況を報告した。

- 開催日 11月29日(木)、30日(金)
- 場 所 原研東海研 映写室(JRR-1)
- 今年は中国から1人招待する

実行委員会で、主要テーマの検討を行ったこと、さらに発表論文公募、研究会参加申込用紙等を配布したことを報告した。その後、招待講演等のテーマについて議論があり、以下のような意見が出された。

- 特殊目的ファイルの話しに(α, n)反応データを入れるべきだ。
- まだできていない特殊目的ファイルの話しはまとめてレビュー的な話しにした方がよい。
- JENDL-2の調整の話しはポスターにしよう。
- 核理論の話は、講演者、内容を再検討する必要有り。

- 燃焼計算で成果が上がっているのでそれを入れる。

II.4 核データ評価国際協力に関するWG会合報告

菊池氏が、配布資料9により、4月30日～5月1日にマルセーユで開かれた標記会合の様子を報告した。

- 各SGの作業がスタートした。
- 中国からのオブザーバーの件は、 ^{238}U の唐氏はOKだったが、構造材核種の馬氏はだめだった。
- 新しく、炉定数作成の統一をはかるためのタスクフォースを作成することになり、JENDLとしては長谷川氏をメンバーとした。

続いて、長谷川氏が Sartori 氏から配布された資料10 (JEF-2の炉定数作成について記したもの) を説明した。

II.5 NEAデータバンク運営委員会報告

5月10日、11日に、NEA本部で開かれたデータバンク運営委員会の様子を配布資料11で菊池氏が報告した。

今年はNEA全体へのサポートサービスを公認した定款変更後の最初の年である。NEAデータバンクの科学サービスに対するNEA他部門のサポートが少ないことが懸念され、秋のNEA運営委員会で議論されることになった。

II.6 PHYSOR' 90

4月23日～4月26日、マルセーユで開かれた International Conf. on the Reactor Operation Design and Computation (PHYSOR' 90) の核データセッションの様子 (配布資料12) を菊池氏が報告した。 ^{235}U の熱中性子領域の η 、 ^{238}U の共鳴パラメータ、遅発中性子などの報告があったとのことである。

III. 討議事項

III.1 本委員会の議題について

本委員会の議題(案)(配布資料13)を菊池氏が説明した。検討の結果、「原子炉崩壊熱基準研究会専門委員会」の報告を原子力学会関係に入れることとした。その他、修正すべき点があったら事務局まで連絡することとした。

III.2 原子力学会1990年秋の大会(核データ・炉物理)合同特別会合について

配布資料14を北沢氏が説明し、検討した結果、ほぼ原案通り決定した。

座長： 瑞慶覧 篤(日立)

1) 大型高速炉用修正炉定数の研究

亀井(東芝)、三田(日立)、河北(MAPI)、石川(動燃)、林(原電)

- 2) 中間エネルギー領域の陽子加速における放射線遮蔽
伴 秀一（高エネルギー研）
- 3) 事務局報告

Ⅲ.3 地域センターについて

配布資料15を菊池氏と中川氏が説明した後、討議した。今後も時間をかけて議論することとした。

Ⅳ. 確認事項

- 次回は、9月7日（金）に行うこととした。オブザーバーは、井頭氏、飯島氏、松延氏、他東京在住のグループリーダーとする。

Action List

No	担当者	内 容	期限
1	全 員	配布資料5と13へのコメントを事務局に伝える。	7月上旬